



◀「西部地区敬老の集い」で(壁面にプロジェクターで大きく映し出しています)

「西部地区敬老の集い」。西部自治振興会から声がかかって学生14人が紙芝居デビューしました。序幕、2年生の舟見啓太さん(20)、谷野楓さん(19)2人が、フーテンの寅さんと妹・櫻(さくら)の看護婦姿で登場。「櫻、おじちゃん今日は今日、ここに紙芝居を持ってきたんだ」。照れが入ってかなりぎこちない演技ながら、「あれ、寅さんと櫻じゃないかい」と会場内の反応はますます。



題名は「ありがとう チンチン電車」。手分けして絵を仕上げた15分間の創作作品。当日はナレーションも分担しました。

組んだ成果。

3年前、「昔の出来事を書きとめよう」と町内の高齢者を何回か招いて「聞き書き」した時、開拓当時の話、路面電車の思い出話がいっぱい出てきたそうです。

◇ 「お年寄りのケアに紙芝居を上演したい」。介護実習をしていた学生から、そんな要望が出ました。当初は「学校で介護予防体操の実践トレーニングをしているし、デイサービスにも活動に行っているの、ポ



今、生き生きと 旭川福祉専門学校介護福祉科地域福祉グループのみなさん

戦前、戦後から高度成長期に至る長い町の歴史の中で、人々の暮らしを支えてきた路面電車。電車に支えられて生きてきた人々の心の中には今も強く生き続けています。9月、「黒田グループ」の14人は、その記憶を創作ストーリー仕立てに、手作り紙芝居の出演デビューを果たしました。「町に欠かせないものだったんだ」。制作の過程で、この町の記憶の一端をようやく肌で感じることが出来たのかも知れません。2年間の学生生活でつながったこの町との心の糸を胸に秘め、仲間たちは来春、各地の介護現場へと社会人の第一歩を記します。

ランテアで介護劇をやるう」と思っていたそうです。その後「各地の高齢者施設で、紙芝居絵本の読み聞かせをするようになってきた」ということを聞いて、ボランティア紙芝居への挑戦を決定。

まとめ役になったのは、「第37回福専祭」実行委員長も務めた舟見さん。留萌高校時代、陸上選手として沖縄県開催の高体連全国大会(全国高等学校総合体育大会)に出場。やり投げ4位、砲丸投げ6位入賞の記録を



メンバーの中心的まとめ役になった舟見啓太さん(中)と櫻役を務めた谷野楓さん(右)

持つ体育会系、そのノリでみんなを引っ張りました。仲間たちは今、学んだ生活支援技術や知識を生かせる就職を目指し、仕上げの実習に取り組む日々。「気持ちを讀み取って係わることが出来る介護福祉士を目指したい」。この紙芝居制作で、大先輩世代の方たちの歴史に少し近づけたようです。

旭川福祉専門学校介護福祉科地域福祉グループ(黒田グループ) / 東川町進化台 ☎82-3566

保育科、介護福祉科の2科にそれぞれ5グループあり、黒田英敏先生の「地域福祉グループ」(15人)は、高齢者介護、地域福祉分野の中の地域支援活動という大きな2つのテーマを学んでいます。その一環として初めて取り組んだのが紙芝居。「西部地区敬老の集い」(9月30日、西部地区コミュニティセンター)で初出演しました。学校全体の地域支援活動は、ほかに特別養護老人ホーム「羽衣園」の敬老会支援、町社協主催の「高齢者ふれあい広場」で手話とハンドベル演奏、ひがしかわ氷祭りで雪像制作(先シーズンの祭りでは各グループ別に4基制作参加)、「生き生きサロン」のもちつき活動など多彩。学生は高齢者施設介護、障害者施設介護など各種要介護施設(特に重度介護)を経験して卒業します。